

令和元年6月20日現在

機関番号：15401

研究種目：基盤研究(B) (海外学術調査)

研究期間：2015～2018

課題番号：15H05171

研究課題名(和文) 社会的なものの再編とリスクの統治 フィリピンの脆弱性とレジリエンスの民族誌から

研究課題名(英文) Reconfiguration of "the Social" and Emerging Mode of Governing the Risks

研究代表者

関 恒樹 (Seki, Koki)

広島大学・国際協力研究科・教授

研究者番号：30346530

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 13,400,000円

研究成果の概要(和文)：本研究は、形式的で匿名的、かつ非人称的な連帯のための思想と制度として捉えられる、「社会的なもの」が、非西欧世界、あるいは今日のグローバルサウスの具体的な地域社会において、いかなる形で現出しているのかを文化人類学的に検討した。本研究では、フィリピンを対象として、「社会的なもの」が、インフォーマルかつ親密なつながりと接続し、相互浸透しつつ、不確実性に対処するためのリソースとして機能している事例を分析した。それによって「社会的なもの」の再想像/創造のための基礎的作業を行った。

研究成果の学術的意義や社会的意義

科学技術、国家、完全雇用、家族など我々が確実に安全と信じてきた近代の諸制度の綻びが明らかになり、同時にそれら諸制度によっては保障しきれないリスクと不確実性が、日常生活に広範かつ根深く浸透する現代において、「社会的なもの」がいかなる変容を経験しつつあるか、また、その潜在性、可能性を具体的な地域社会の事例から捉える本研究は、広く社会的意義を有すると考えられる。特に、公的な社会保障の諸制度が整っていないフィリピン社会において、インフォーマルな社会性と相互性が、新たな公共性を喚起しつつ、人々の生の不確実性を低減する諸事例を論じる本研究は、先進国をも含めた今日の世界にとって多くの示唆を含むものである。

研究成果の概要(英文)：This study clarified the current reconfiguration of "the social," a collectivity and connectedness that supposedly ensures a sense of security in life among people, which emerges in interactions with the contemporary neoliberal governmentality and ensuing precarity experienced by the urban residents in the Philippines. It further discussed that such reconfiguration can be clearly observed in the process of decentralization and liberalization since the early 1990s of the Philippines. Focusing on the ethnographies of precarity which defines the various localities of the Philippines, the study examines various cases which indicate the complicity of the emergent social which, on one hand, works to expand the solidarity among the poor but, on the other hand, advances the neoliberal logic of resilience, self-reliance, and entrepreneurial citizenry.

研究分野：文化人類学

キーワード：社会的なもの 社会開発 国際労働力移動 観光 地方政治 地域紛争 福祉ミックス フィリピン

様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19、CK - 19 (共通)

## 1. 研究開始当初の背景

1970年代末以降の欧米における福祉国家体制の衰退の過程で、国民という集合的アイデンティティと連帯に基づいた、リスクに対する集合的保障の仕組みとしての「社会的なもの」が大きな変容の中にあるということは、今日の人文社会諸科学の共通理解であるといえよう(たとえばカステル, R. (2012) 『社会問題の変容 - 賃金労働者の年代記』)。特に、近年のグローバル化とネオリベラリズムの浸透は、リスクの細分化と個人化をもたらし、それに対処する「社会的なもの」の編成は、従来の国家による規制や介入よりも、むしろ自律的な市民や生産的で活発なコミュニティに「委託」される傾向が論じられている(Rose, N. (1999), Powers of Freedom: Reframing Political Thought; Muehlebach, A. (2012), The Moral Neoliberal: Welfare and Citizenship in Italy)。このようなポスト福祉国家の動態に関する議論が、欧米の経験を中心に展開されてきたのに対し、近年では、安定した近代的福祉国家体制を経験しないまま「超低出生率社会」へ突入しつつある東アジアのいわゆる「圧縮された近代」に注目しつつ、欧米近代の枠組みでは捉えきれない親密圏と公共圏の再編の中に、今日の「社会的なもの」の変容を論じる研究もある(落合恵美子編 (2013) 『親密圏と公共圏の再編成 - アジア近代からの問い』)。それに対し本研究では、これらの文脈では論じきれないフィリピンに注目する。

フィリピンを事例として「社会的なもの」の再編を考える場合、ポスト開発独裁の文脈が重要になる。なぜなら1970年代から1980年代におけるマルコス大統領時の開発独裁期こそ、フィリピンにおいて「社会的なもの」がもっとも包括的かつ可視的に展開されたからである。この時期、「新しい社会」を標語にマルコス政権は都市計画、社会住宅の供給、インフラや社会サービスの供与、そして社会秩序を維持するための人々の規律化などを強力な国家による介入によって進めた。一転し1980年代後半以降の民主化の過程では、NGOなどの市民社会や民間セクターなどの非国家的アクターに、「社会的なもの」の活発な構成員の役割が期待された。さらに1990年代には「エンパワメント」や「能力付与 enablement」がガバナンスのキーワードとなり、リスクの統治は自律、生産性、自助などの価値を内面化した市民やコミュニティの活性化によって達成されるとされた。フィリピンの事例が示唆するのは、社会開発やリスクの統治に動員されるこのようなネオリベラリズムの論理が、一見それとは反対の論理に基づく社会福祉、再分配、国家による計画、あるいは家族など親密圏への国家による介入と管理などと密接に絡み合いつつ進展する様態である。そこで本研究が焦点をあてるのは、このようないわばネオリベラルなリスク統治の論理が、安定した福祉国家を経験した欧米や一部のアジア諸国とは異なる文脈、特に「弱い国家」、社会階層間の格差と分断、そしてインフォーマルな政治経済制度などが卓越するフィリピンにおいて展開されるとき、コミュニティの日常世界においてどのような矛盾、ジレンマ、予期せぬ結果が生じ、それが人々の間にいかなる包摂と排除、あるいは脆弱性とレジリエンスをもたらしているのか、このような局面である。

## 2. 研究の目的

本研究は、現代世界における「社会的なもの」の再編とリスク統治の今日的あり様を、フィリピンにおける脆弱性とレジリエンスの民族誌(エスノグラフィー)に基づいて明らかにすることを目的とする。「社会的なもの」とは、現代世界に内包されるさまざまなリスク(例えば貧困、失業、雇用の不安定性、病、老い、紛争、災害など)に対処し、「飼い馴らす」ための仕組みであり、家族、コミュニティ、市場、市民社会、そして自治体や国家など諸制度の編成体であると本研究では捉える。本研究が試みるのは、しばしば「弱い国家」と公的制度の脆弱性によって性格付けられると論じられてきたフィリピンの事例が、国家による公的制度、あるいは公助によるリスクの包摂が一層困難になりつつある今日の世界において、「社会的なもの」を再想像/創造する上で、大いに有効な示唆を与え得ることを示すことである。

## 3. 研究の方法

本研究は、研究代表者を含む6人の研究分担者と3人の海外共同研究者により、4ヵ年計画で進められる。初年度は、共同研究のフレームワークのさらなる精緻化とリサーチクエストのさらなる明確化のために、研究分担者による会議を1回、海外共同研究者を含めた会議を1回開催する。そしてフィリピンにおける予備的フィールドワーク(3週間ほど)を各メンバーが実施する。2年目は、フィリピンにおける集約的フィールドワーク(1ヶ月前後)を行う。その上で、民族誌データの共有を目的に、初年度同様2回の会議を開催する。3年目は、フィリピンにおける補足調査(3週間から1ヶ月前後)を行う。そして、データの最終的な集約のために2回の会議を開催する。最終年度は、研究成果を国内外の主要学会で発表し、それに基づき成果を出版する。

## 4. 研究成果

関は、マニラにおけるジェントリフィケーションと社会化住宅の事例から、民主化期の社会性の特徴と統治性について成果をまとめた。日下は、レイテ島における台風災害後の生計基盤の変化が、いかに麻薬ビジネスの蔓延と、麻薬常習者に対する排他的な態度が強まったのかについて成果をまとめた。東は、ボラカイ島の観光において見られる社会的なもの二面性について、特に、大統領の介入により閉鎖へと向かう経緯、および再開後の規則や人々の意識の変化から、新たな「社会的なもの」の現れとその二面性について論考をまとめた。辰巳は、西サハ

ラの国家建設とフィリピン・ムスリムの自治地域建設との比較研究の成果をまとめた。長坂は、フィリピン北部のイロコス地方農村において、マイクロクレジットの浸透、国家の支援によるたばこ農家栽培における契約の論理の浸透などのなかで、頼母子講が生成し、活況を呈するなど、村落社会における社会的なものの再編状況についての研究成果をまとめた。太田は、フィリピンの社会保障制度 SSS に関して現地で情報収集を行った。SSS が「社会的なもの」を担保する制度としていかなる意義を有するのかについて成果をまとめた。これらの研究成果は、2018 年 11 月に開催された国際会議である Philippine Studies Conference in Japan にてパネルを組織し、発表された。成果をまとめた英語論文集での刊行を予定している。

## 5 . 主な発表論文等

### 〔雑誌論文〕(計 4 件)

Kusaka, Wataru, Bandit Grabbed the State: Duterte 's Moral Politics, Philippine Sociological Review, 査読あり、Vol.65, 2017, 49-75

Kusaka, Wataru, Discipline and Desire: Hansen 's Disease Patients Reclaim Life in Culion, 1900-1930s, Social Science Diliman, 査読あり、Vol.13, 2017, 1-29

太田和宏、貧困家庭向け条件付き現金給付プログラムのインパクトと課題 フィリピン 4 Ps の批判的検討、神戸大学大学院人間発達環境学研究所研究紀要、査読あり、9 巻、2016、51 - 62

Seki, Koki, Capitalizing on Desire: Reconfiguring " the Social " and the Government of Poverty in the Philippines, Development and Change, 査読あり、Vol46, 2015、1253 - 1276 10.111/dech.12200

### 〔学会発表〕(計 19 件)

Seki, Koki, Urban Transformation and Emerging Sociality: the People 's Plan for Metro Manila 's ISFs, the 4<sup>th</sup> Philippine Studies Conference in Japan, 2018

日下渉、公共圏の権利と親密圏の悲しみ フィリピンにおける性的マイノリティの生計と承認、東南アジア学会、2018 年

日下渉、道徳という偽りの処方箋 フィリピンにおける『悪魔探し・退治』の政治、日本比較政治学会、2018 年

Kusaka, Wataru, " Good Citizens " Supporting War on Drugs: How Disaster Changed Livelihoods and Moral Subjectivities in Albuera, Leyte, 4th Philippine Studies Conference in Japan, 2018

Kusaka, Wataru, Complicity of " Good Citizens " and Extrajudicial Killing in the Philippines: A Neoliberal Outcome of Democracy, アジア政経学会、2018 年

Azuma, Kentaro, Two Dimensions of 'the Social': Oppression and Solidarity in the Course of Tourism Development of Boracay Island, The 4th Philippine Studies Conference in Japan (PSCJ 2018), 2018

東賢太朗、未来への抑圧、過去への連帯 フィリピン・ボラカイ島の観光開発に現れる新たなホストとゲスト関係、日本文化人類学会第 52 回研究大会、2018 年

Yoriko Tatsumi, Politics and Cultures of Muslims in the Philippines: An Overview, Seminar Islam, Politics and Social Change, CRIA:Centro em Rede de Investigação em Antropologia, 2018

Nagasaka, Itaru, Diversification of Livelihood Strategies and Emerging Sociality in the Rural Philippines: A View from Longitudinal Fieldwork in Ilocos, The 4th Philippine Studies Conference in Japan (PSCJ 2018), 2018

Ota, Kazuhiro, Social Security Institutions: " The Social " among People in the Philippine Society, The 4th Philippine Studies Conference in Japan, 2018

日下渉、「義賊」の民主主義は可能か? - フィリピン、ドゥテルテ大統領の社会構築、グローバル・ガバナンス学会、2017 年

日下渉、道徳で救う命、捨てる命 ドゥテルテの麻薬戦争、国際政治学会、2017 年

Nagasaka, Itaru, Migratory Experiences, transnational ties and self-making of young Filipinos in Italy, Sussex University Migration Seminar Series, 2017.

Seki, Koki, Governing the Risks and Precariousness under the Contemporary Reconfiguration of " the Social " : the Ethnographies of Vulnerability and Resilience in the Philippines, The 10<sup>th</sup> International Conference on Philippine Studies, 2016

Nagasaka, Itaru, Morality, Expectation and Negotiations: Contextualizing the Conditional Cash Transfer Program in the Philippines, The 10th International Conference on Philippine Studies, 2016

Seki, Koki, Deploying the Social without Welfare State: Complexity and Contradiction Experienced in the Philippines, The 114th American Anthropological Association Annual Meeting, 2015

Kusaka, Wataru, Moral Division of the City: A View on Political Conflicts in Metro

Manila, Consortium for Southeast Asian Studies in Asia (SEASIA), 2015  
Nagasaka, Itaru, Imagining Life outside Place of Settlement: Self-making Processes of Young Filipino Immigrants in Italy, the 114<sup>th</sup> American Anthropological Association Annual Meeting, 2015  
辰巳頼子、放射線被害からの広域避難の調査研究に向けて 東京都内の母子避難者の事例から、日本文化人類学会、2015

〔図書〕(計15件)

日下渉 他、丸善出版、国際開発事典、2018、638  
東賢太郎 他、ミネルヴァ書房、ホスト・アンド・ゲスト、2018、468、  
長坂格 他、昭和堂、外国人移住者と「地方的世界」：東アジアに見る国際結婚の構造と機能、2018、384  
日下渉 他、国際書院、ポピュリズムの政治学、2018、257  
日下渉 他、明石書店、21世紀東南アジアの強権政治、2018、264  
日下渉 他、有斐閣、現代アジア経済論、2018、252  
太田和宏、法律文化社、貧困の社会構造分析 なぜフィリピンは貧困を克服できないのか、2018、245  
関恒樹、明石書店、社会的なものの人類学 フィリピンのグローバル化と開発にみるつながりの諸相、2017、331  
辰巳頼子、耕文社、つながりを求めて：福島原発避難者の語りから、2017、155  
長坂格 他、慶応義塾大学出版会、東南アジア地域研究入門 2 社会、2017、336 (67 - 86)  
Kusaka, Wataru, National University of Singapore Press and Kyoto University Press, Moral Politics in the Philippines: Inequality, Democracy and the Urban Poor, 2017, 341  
日下渉 他、晃洋書房、シリーズ 転換期の国際政治 4 - 政治の司法化と民主化、2017、280(39-68)  
日下渉 他、東大出版、人種主義を解体する 2 - 科学と社会の知、2016、344 (157-192)  
日下渉 他、京都大学出版会、承認欲望の社会変革 2015、248  
Nagasaka, Itaru, Palgrave Macmillan, Mobile Childhood in Filipino Transnational Families: Migrant Children with Similar Roots in Different Routes, 2015, 268.

〔産業財産権〕

出願状況(計 0件)

名称：  
発明者：  
権利者：  
種類：  
番号：  
出願年：  
国内外の別：

取得状況(計 0件)

名称：  
発明者：  
権利者：  
種類：  
番号：  
取得年：  
国内外の別：

〔その他〕

ホームページ等

6. 研究組織

(1)研究分担者

研究分担者氏名：太田 和宏

ローマ字氏名：Ota, Kazuhiro

所属研究機関名：神戸大学  
部局名：人間発達環境学研究科  
職名：教授  
研究者番号（8桁）：00273748

研究分担者氏名：辰巳 頼子  
ローマ字氏名：Tatsumi, Yoriko  
所属研究機関名：清泉女子大学  
部局名：文学部  
職名：准教授  
研究者番号（8桁）：20407381

研究分担者氏名：東 賢太郎  
ローマ字氏名：Azuma, Kentaro  
所属研究機関名：名古屋大学  
部局名：人文学研究科  
職名：准教授  
研究者番号（8桁）：40438320

研究分担者氏名：長坂 格  
ローマ字氏名：Nagasaka, Itaru  
所属研究機関名：広島大学  
部局名：総合科学研究科  
職名：准教授  
研究者番号（8桁）：60314449

研究分担者氏名：日下 渉  
ローマ字氏名：Kusaka, Wataru  
所属研究機関名：名古屋大学  
部局名：国際開発研究科  
職名：准教授  
研究者番号（8桁）：80536590

(2)研究協力者  
研究協力者氏名：  
ローマ字氏名：

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属されます。